因明學協會報告

明治廿三年十二月

因明學協會

LIBRARY

口錄

○緒言
○論說（議員ハ大臣ニ阿諛スヘカラス）雲英龍護
○講義（因明入正理論疏）雲英晃耀
○會員（名譽會員 專求會員 隨喜會員）
○記事（會長應請數十件 並著書年月）
○雜錄（諸疏拔書）

東洋因明學協會々則

第一條　本會ハ東洋因明學協會ト名ケ愛知縣三河國幡豆郡一色村ニ本部ヲ置ク

第二條　本會ハ雲英晃耀氏ヲ會長トシ因明學ヲ研究活用シ博ク世界ニ擴張スルヲ以テ目的トス

第三條　會員ハ名譽專求隨喜ノ三種トス尤モ各會員共ニ入會セントセハ其姓名等ヲ入會票ニ清記捺印シ會長ニ贈ルヘシ

第四條　專求會員ハ入會ノ節本會擴張費トシテ金若干ヲ會長ニ納ムモノトス名譽隨喜兩會員ハ納ルト否トハ其人ノ意ニ任スヘシ但會員團結ノ上ハ因明會雜誌ヲ發行シ會員ニ分布シテ學術研究ノ便宜ニ備ルモノトス

第五條　會員協議ノ上各地便宜ニ支部ヲ設ケ毎月又ハ隔月ニ研究會ヲ開キ其討論ノ旨趣ヲ筆記シ本部ニ郵送スレハ會長ハ添刪シテ雜誌ニ記載スルヿアルヘシ

第六條　會長ハ會員ノ請ニ應シ遠近ニ拘ラス各地ノ支部ニ派出シテ講義ヲナシ質問ヲ受クヘシ

第七條　會員事故アリテ退會セント欲スルトキハヲ本部ニ其旨屆ケ出ツヘシ但退會スルモ先キニ納ム處ノ本會擴張費ハ返戻セス

東洋因明學協會

緒言

會長雲英晃耀師維新已來吾邦人ノ多クハ議論演說訴訟公判辨論ヲ好ミ殊ニ其法ニ至テハ東洋ニ因明活論法アルニモ關セス纔ニ西洋路日克ノ輸入ヲ得テ大ニ滿足スルノ士世間益々多キヲ嘆キ十數年專ラ心ヲ此學ニ注キ之ヲ學ヒ之ヲ研キ愈々宗因喩三支組織ノ有益ナルヲ慥ノ嚮キニ協會ヲ設ケ名ケテ東洋因明學協會ト云フ會員已ニ五百有餘名又身力精神ノ及フ限リ講義ニ演說ニ東奔西走シテ此學ノ擴張ヲ謀リシコト已ニ一百餘回然レモ纔ニ當日來聽ノ人ニ聞カシムルノミニシテ空シク普傳天下ナル目的ヲ達スルナキヲ憾メリ故ヲ以テ因明雜誌ヲ發行シ殊ニ斬新ナル問題ヲ取テ新式ヲ組織シ普ク吾人ヲシテ此學ヲ活用セシメント欲スルコト茲ニ年アリ僧家本來究措大縱令三五賛成スルノ人アリト雖モ此大事業ヲシテ微力ノ能ク十分ナル成功ヲ爲サシムル能

ハサルヲ認メ時機ノ至ルヲ待ツ本年東洋未曾有ナル帝國議會開設セラル、ニ逢遇シ我カ會員ノ貴衆両院議員ニ當撰スル者亦少々ナラス己ニ己ニ輩下ニ蝟集シ將ニ議院ニ登リ侃々トシテ國事ヲ議シ諤々トシテ民政ヲ論シ上ハ

天皇陛下ニ對シテ忠君ノ精神ヲ顯シ下ハ四千万同胞ニ向テ代議政体ノ尊フヘキヲ振張セントスルニ當テハ雑誌發行一日モ忽緒ニ附スヘカラサルノ時運ニ到達セリ嗚呼本會ノ微力ヲ云何セン雑誌發行ヲ爲ス能ハス嗚呼此學ノ活用ヲ云何セン何ヲ以テ乎會員諸士ニ見ヘン是レ本會ノ止ムヲ得スシテ殊ニ報告ヲ發行シ會員ニ頒布スル所以ナリ

◎論說（議員ハ大臣ニ阿諛スカラス）　雲英龍護

因明トハ何ソ云ヶ東洋印度ノ古學論法ニシテ甲辨乙駁乙論甲駁スルニ付テハ理由即チ因ヲ以テ各家ノ主張スル所ノ主義即チ宗ヲ成立セシメサルヘカラス其然ル場合ニ於テハ必スヤ之ヲ證ムルノ証明的例証ナクンハアラス今假リニ被告ト爲リ裁判ニ召喚セラルヽトセン乎十分ニ原告ノ非理ナルヲ知テ其請求ヲ拒絶セントスレハ飽マテ其然ルヘキ理由即チ因ヲ以テ辨論セサルヘカラス然ラサレハ如何ナル道理アル被告ト雖モ容易ニ此ノ訴訟ニ打勝ツコトヲ得サルノミナラス訴訟入費ヲ出シ遂ニ原告ヲシテ其非ヲ遂ケサシムルニ至ル豈ニ嘆スヘキノ至リナラスヤ因ノ論法ニ必用ナル敢テ喋々ヲ要セサルナリ宜ナリ（ヘートウビドヤー）ヲ譯シテ因明ト云フヤ方今ハ議論世界ナリ辨論ノ盛ナル判事撿事議員代言人ヲ始メトシ三歳ノ童子ニ至ル皆ナ此學ヲ研究スル敢テ不可ナルナキヲ見ル已ニ帝國議會モ開設セラレ貴衆両院議員ノ論法ヲ知ラスシテ只空シク議場ニ雁列スルノミニテハ上政府ヨリ下人民ヨリ提出請求セラレタル諸議件ニ向テ公平ナル議決ヲ爲シ能ハサルノミナラス亦以テ諸外國ニ對シ豈ニ赧然ナルニアラスヤ然ラハ則チ議員タルモノ宜シク自ラ其重任ヲ荷ヘルヲ思ハサル可カラス

議員ハ官吏ニ非サルナリ衆望ノ皈スル所ロヨリシテ撰出セラレタル代議士ナリ

以テ上ハ

天皇陛下ニ對シ忠誠ヲ擢テ下ハ万民ニ向テ人民ノ希望ヲ滿足セシメサルヘカラサルナリ思フニ議員中或ハ其職ノ重キヲ忘レ又ハ其任ノ大ナルヲモ失ヒ唯タ官吏ニ阿諛スルヲ以テ其職トスルニ於テハ折角東洋未曾有ナル議會開設ノ大幸福ニ逢遇シ衆望ニ依テ撰出セラレタル責任ハ何ヲ以テ報セントス今假リニ或ル阿諛議員アリトセンニ自家ノ主義ニ賛成ヲ求メンカ爲メニ公平無私ナル眞正代議士ニ向テ云ク

新因明誤謬式
- 宗—両院議員ハ大臣ニ阿諛スヘシ
- 因—年給少キカ故ニ
- 喩—諸口年給少キ者ハ皆ナ大臣ニ阿諛スヘシト見ヨ譬ハ属官小吏ノ如シ(同喩合作法)

諸口大臣ニ阿諛スヘキニ非ル者ハ皆ナ年給少キニ非スト見ヨ譬ハ外國公使ノ如シ(異喩離作法)

新誤
- 第一段—属官小吏ノ如ク(同例)総テ年給少キ者ハ(因)皆ナ大臣ニ阿諛スヘシ(宗)
- 第二段—両院議員ハ(宗)年給少キ者ナリ(因)
- 第三段—故ニ知レ両院議員ハ大臣ニ阿諛スヘシ(総宗)

萬一如此阿諛議員アリトセン乎眞正議員ハ默過スルニ忍ヒス即時ニ因明論式ヲ以テ之ヲ破斥セサルヘカラス即チ左ノ如ク反對ニ立論組織スヘシ

新因明正式
- 宗—両院議員ハ大臣ニ阿諛スヘカラス
- 因—代議士ナルカ故ニ
- 喩—諸口代議士ナル者ハ皆ナ大臣ニ阿諛スヘキニ非スト見ヨ譬ハ甲黨撰出議員ノ如シ(同喩合作法)

諸口大臣ニ阿諛スヘキ者ハ代議士ニ非スト見ヨ譬ハ乙黨撰出議員ノ如シ(異喩離作法)

新表
- 第一段—甲黨撰出議員ノ如ク(同例)総テ代議士ナル者ハ(因)皆ナ大臣ニ阿諛スヘカラス(宗)

々顯

因正
- 第二段—両院議員ハ(宗)代議士ナル者ナリ(因)

明式
- 第三段—故ニ知レ両院議員ハ大臣ニ阿諛スヘカラス(総宗)

々謬

因表顯
- 第二段—両院議員ハ(宗)年給少キ者ナリ(因)

明式
- 第三段—故ニ知レ両院議員ハ大臣ニ阿諛スヘシ(総宗)

ト如此因明法ニ依リテ代議士ナル理由即チ因ヲ以テ立論組織スル時ハ巧ニ彼ノ阿諛議員ノ主義ヲ打破シ去テ代議士ハ阿諛スベカラスト云フ本分ヲ顯シ能ンコト容易ナリ縱令無理無用ナル議決ヲ請求スル者アルモ國會ハ飽マテ之ニ反對シ因明法ヲ以テ其無理無用ナル理由即チ因例証即チ喩ヲ以テ之ヲ破斥シ滿場多數ノ贊成同意ヲ請ヒ四千万同胞ヲシテ十分滿足セシムルコト代議士ノ責任ナルニアラズヤ嗚呼因明論法ノ代議士ニ必用ナル偉且ツ大ナリト謂フベシ

◎講義（因明入正理論疏）

雲英晃耀

因明入正理論疏講義

此書ハ支那國慈恩寺窺基論師ノ撰述ニシテ印度國天主論師ノ因明入正理論ヲ解釋セシ註疏ナリ抑因明ハ印度ノ論理法ニシテ立敵對揚シ自已ノ主義ヲ主張スルニ當リ條理ナクンハ止ナン苟モ條理アラハ政府議院裁判所多人衆ノ中或ハ賢哲者ノ面前等何タル場所ニ於テモ言辭活潑議論勇猛ニシテ意ニ畏レナク言ニ屈スルナク徒ニ多言ヲ費サス言簡ニシテ義通シ語少ニシテ旨貫キ勝ヲ論場ニ占ムヘキ妙術ニシテ眞ニ就キ俗ニ就キ內ニ就キ外ニ就キ社會ノ問タニ一日モ缺クヘカラサル金科玉條ナリト云フモ過勝ニ非サルナリ殊ニ方今ノ如キ議論世界ニ於テヲヤ然ルニ此法タルヤ原ト過去佛ノ所說ニシテ天地始創ノ際足目仙人之レヲ承ケテ九句因ヲ製シ釋迦佛出世已來殊ニ此軌則ヲ用テ外道ヲ摧伏シ正道ヲ安立スルコト散シテ諸經ニアリ別シテ大佛頂首楞嚴經五二紙右等ニハ佛自ラ三支具足ノ作法ヲ示ス彌勒大士之ヲ瑜伽論地論ニ承ケ次ニ無着論師之ヲ顯揚論對法論ニ傳フ次ニ世親論師ハ其師如意論師ノ外道ト論議シテ墮負シタルヲ恨ミ遂ニ舌ヲ嚙三死セシヨリ爲ニ復讎センコトヲ思ヒ別ニ論軌論式論心ヲ製シ其作法ヲ詳正ス然レトモ尙ホ軌式當ラサルアリ爰ニ陳那論師アリ漢ニ大域龍ト譯ス議論ノ巧妙ナルコト五印度中向フ所ロニ敵ナシ勢ヒ大龍ノ如シ因テ名クト此論師因明正理門論一卷ヲ造シ頹綱ヲ匡正シ重チテ規矩ヲ成シ三支ノ規則ヲ定メ眞似ノ破立ヲ明ニセシヨリ因明ノ正作法於是始メテ定マル依テ世親已前ヲ古因明ト明ケ陳那已後ヲ新因明ト名ク乃チ聲无常ノ一量ヲ以テ生顯ノ聲常ヲ粉摧シ眼等爲他用ノ一量ヲ以テ數論ノ神我ヲ破シ而モ有性非有性ノ一量ヲ以テ勝論ノ雄實有性ヲ墮負セシメタリキ恰モ鉄捧ヲ以テ蟻軍ヲ潰ス如シ瀉車ヲ以テ螂臂ヲ折ルカ如シ次ニ天主論師アリ陳那論師ニ事ヘテ三量二因八門兩益ヲ啓通シ以テ因明入正理論一卷ヲ製ス然ルニ支那國ノ傳來ハ陳ノ眞諦三藏世

親ノ如實論ヲ譯ス又大乘義章一四十五紙等ニ依ルニ間々因明ノ氣息アリ故ニ知ル浮影大師ノ時分ニモ全ク因明ナキニ非サレトモ世ニ行ハレス唐ノ三藏玄奘論師印度ニ在テ衆稱戒賢ノ二論師ヨリ因明ヲ學ヒ歸唐ノ後上足ノ慈恩論師ニ授ケショリ盛ニ弘通スルコトヲ得タリ即チ慈恩論師謹テ三藏相傳ヲ承ケ製作シタルカ即チ此ノ入正理論疏六卷ナリ委クハ本文ニ入テ知ルヘシサテ本朝傳來ニ凡ソ四傳アルコト近クハ三國佛法傳通緣起ニ出ヅ今ハ畧ス耀ヤ倩本朝上世ニ亘テ因明弘傳ノ事迹ヲ案スルニ且ク端源記三三十三紙右ニ依ルニ人王六十代　醍醐帝嘗テ身實極ニ位シテ廣ク佛典ヲ講究シ頗ル佛化ニ隨順シテ陰ニ大政ヲ翼贊シ玉ヒケリ延長四年春(九百六十五年前)特ニ南都ノ七大寺ニ詔シテ各碩德ヲシテ纂文ヲ修訂シ臧否ヲ考覈セシム又傳通緣起中九紙左ニ依ルニ延喜十四年(九百七十七年前)同帝ヨリ東大寺ノ圓超僧都ニ詔シテ因明章疏ノ目錄ヲ撰セシメ給ヒシ事ヲ載ス又此疏ノ奥書ニ依レハ從一位宇治左府賴長公ハ久壽二年(七百三十六年前)冬ヨリ保元元年ノ夏ニ至ルマテ菩提院ノ藏俊僧正ヲ師トシテ此疏ヲ學習シ點ト義トノ不審ヲ決シタルヿヲ載ス又大日本史第二百四十八卷ノ列傳ニ依ルニ賴長公ハ因明ヲ僧惠曉ニ受ケ才名日ニ著ルヽノ旨ヲ記セリ此左府公ハ此疏ノ註記ヲ製シ給フコト瑞源記卷末ニ列スル因明疏記目錄

ニ出ツ又此ノ左府公ハ因明四相違註釋一卷ヲ製シタルコト大和國長谷寺ニ藏スル所ノ林常德大等手入ノ瑞源記卷末目錄ノ格上ニ記セリ別シテ法差別ノ下ノ冠註下本九紙右與所立法勝劣差別而作相違ノ文ニ至テ發揮ノ點アリ故ニ于今左府公ノ義ト稱シテ因明學ノ徒ハ之ヲ重ンズ此點ハ明本鈔三五紙ニ出ツ如此帝王ト云ヒ左府公ト云ヒ卒先シテ之ヲ講學シ給フ當時因明ノ盛ナル亦以テ懲スルニ足ル彼ノ慈惠大師ノ時ニ當リテハ此因明本朝全國ニ普及シ惠心僧都モ天台宗ニ在リ乍ラ自他宗ニ名高キ因明者ナリキ又拾遺古德傳ニ依ルニ保元元年丙子ニ念佛ノ元祖圓光大師モ二十四歳ノトキ南都ノ藏俊僧正ノ房ニ往キテ法相宗ノ自解ヲノベタルトアレハ藏俊ハ因明ノ達人ナレハ其談必ス因明ニ及ヒタルヤ相違ナガルヘク又高田ノ正統傳ニ依ルニ建久二年辛亥ニ我カ見眞大師十九歳ノトキ法隆寺ノ覺運僧都ニ逢テ六十余日因明秘奥ヲ研究シタルコトアリ爾來因明大ニ衰廢シ空ク唯識ノ一部分ニ理沒シテ天台華嚴ヲ學スルノ徒ハ三支ノ名目サヘモ知ラサリキ況ヤ世間ノ學士ヲヤ若此道ヲ再興シ之ヲ講シ之ヲ學シ之ヲ活用シ上ハ廟堂ノ君子ヲ始メトシテ下ハ在野ノ生徒ニ至ルマテ此道ヲ以テ事ヲ議シ此法ニ依テ事ヲ論スルニ至テハ啻ニ佛法諸宗ノ幸福ノミナラス亦大ニ議論ノ世界ヲ巨益スルノミナラス文明ノ風敎ヲ補翼スル

ニ實功少々タラサルナリ苟モ因明ノ活用ヲ欲セハ先ツ此疏ノ文義ヲ通曉セサルヘカラス若夫此ノ疏ノ文義ニ暗キトキハタトヒ三支ノ作法ヲ以テ事ヲ議シ論スルモ猶シ面ニ牆シテ立テルカ如シ是レ耀カ初學ノ爲メニ此ノ講義錄ヲ揭載スル所以ナリ而シテ此ノ入正理論ノ譯出ノ後支那國ニ在テハ有名ナル淨眼、神泰、文備、靖邁、靈寗、勝莊、璧公、文軌、玄範、清幹、道邑等、又新羅國ニ於テハ順憬、元曉等、干將莫耶ヲ帶ヒタル勢ヒ龍蛇ノ玉ヲ抱ケル意ニテ各々註述ヲ作セトモ鶴ノ鷄群ニ在ルカ如シ獨リ卓然タルハ慈恩論師ノ此疏ノミ世人尊崇シテ大疏ト稱スル亦宜ナラスヤ別シテ文軌ノ疏ハ多ク此疏ノ所破トナリ次ニ義斷一卷板本流行滋洲論師ノ撰ナリ是レ多クハ他師ノ義ヲ破ス次ニ纂要一卷板本流行同師ノ撰ナリト雖モ一部ノ文古師ニ同スルニ似タリコレ或ハ慈恩ニ從ハサル以前ノ所作ナラン歟何トナレハ四相違私記上四紙ニ右証明スレハナリ次ニ前記三卷後記二卷(寫本)智周論師ノ撰ナリ疏文ノ要處ニ付テ隨文作釋ス其他畧之次ニ本朝ニ於テ大疏ノ末疏少々ナラスト雖モ南都北寺相傳ノ明燈鈔十二卷(寫本)秋篠善珠僧正ノ撰次ニ南寺相傳ノ裏書六卷導本三卷(寫本)音石明詮僧都ノ作次ニ四相違私記四卷子嶋眞興大德ノ作次ニ四相違註釋四卷横川惠心僧都ノ作次ニ大疏鈔四十一卷(寫本)合シテ十卷トス菩提院藏俊贈正ノ作次ニ明本鈔十三卷(寫本)合シテ七卷トス宗性僧都ノ寫傳ニシテ因明ノ同學鈔トモ謂ツヘキ珍書ナリ次ニ瑞源記八卷華嚴寺鳳潭和尚ノ作次ニ考決十六卷寫本大吉房德成作其他鴈寺孝仁ノ疏記明香平備ノ疏記及ヒ千金莫傳富貴道詮ノ大義鈔等數十部ノ註釋アレトモ世間ニ現在スルモノ甚タ稀ナリ嗚呼惜哉

● 東洋因明學協會々員表（但入會當時之官職入會順）

○名譽會員

東京組合代言人會頭　大谷木備一郎
官報局次長　高橋健三
愛知縣知多郡長　長坂重孝
同　縣南設樂郡長　端山忠左衛門
同　縣知事　勝間田稔
元老院議官　中島錫胤
愛知縣名古屋控訴院長　大塚正男
大審院民事第一局長　松岡康毅
愛知縣碧海郡長　市川一貫
元老院幹事　細川潤二郎
同　副議長　東久世通禧
愛知縣額田郡長　針谷重懋
三重縣知事　石井邦猷
同　縣大書記官　伊藤謙吉
同　始審裁判所判事　稱津恂
同　同　高嶋正載
岐阜縣知事　小崎利準
同　始審裁判所判事　鷹松重明
同　警部長　川俣正名
京都始審裁判所長　山根秀介
大津始審裁判所長　戸原楨國
同　同　判事　豊田弘世
愛知縣幡豆郡長　佐々木復介

岐阜縣始審裁判所判事　笹岡雅房
大坂控訴院長　兒嶋雄謙
同　始審裁判所長　大嶋貞敏
同　衛生課長　平田好
滋賀縣知事　中井弘
大坂鎮臺一等軍醫　山田俊郷
同　控訴院評定官　臣佐武
靜岡縣知事　亡　關口隆吉
同　書記管　伊志田友方
同　始審裁判所長　安原吉政
同　居士　亡　宮原木石
臨濟宗妙心寺派前管長　今川貞山
東京組合代言人　大岡育造
長崎扣訴院長　人見恒民
元老院議長　大木喬任
愛知縣額田郡岡崎病院長　盤谷退藏
同　書記官　山縣伊三郎
同　同　柳本直太郎
文學博士、　南條文雄
愛知縣知多郡大野村　小林康任

大谷派執事兼內事部長　渥美契緣
名古屋始審裁判所長　殿谷龍一
三重縣桑名郡長　山本如水
秋田縣仙北郡長　原弘三
同　秋田始審裁判所長　薄井龍之
同　同　判事　堀清以
同　同　同　五十嵐佐備
山形縣山形始審裁判所長　小野保
同　知事　柴原和
同　北村山郡長　寒河江季三
同　西村山郡長　西川耕作
滋賀縣書記官　阪本彭之助
飛彈國高山治安裁判所判事　田中祿郎
同　同　同　澤崎簾二
愛知縣陸軍々醫監　橫井信之
東本願寺連枝　大谷勝尊
愛知縣病院長　熊谷幸之助
同　海西郡東市江村農　青樹英二
嶋根縣知事　籠手田安定
同　松江始審裁判所長　新井善敎

岐阜縣海西下石津郡長　增田作藏
同　第三區衆議院議員　吉田耕平
曹洞宗本山越前永平寺管長　瀧谷琢宗
岐阜縣美濃國多藝上石津郡長　高木貞正
同　始審裁判所判事　西平
同　同　同　大津釼次郎
同　同　同　佐川鎗次郎
同　同　撿事　大野金三郎
同　同　同　橫井道直
同　警部長　丸山重俊
函館控訴院長　亡　青木信寅
大阪控訴院評定官　亡　安井讓
兵庫縣會議員　亡　藤田積中

◎專求會員

愛知縣名古屋印刷會社長　阪上有三
同　代言人　馬淵與曹
同　代言人　石川猪太郎
同　代言人　中嶋元
同　縣會議員　澁谷良平

工部省官吏　野口忠正
愛知縣碧海郡大濱村商　近藤又左衛門
大坂府會元議長　西川甫
同　西成郡春日出新田　中谷德恭
愛知縣知多郡半田村　西川六右衛門
同　同　郡役所書記　高山丈助
同　同　半田村　蒲池惠鎧
同　同　郡役所書記　服部光三朗
同　同　武豊村　永尾了貫
同　同　郡役所書記　鈴木功
同　同　同　茜部與理刀
愛知縣知多郡有脇村　神谷房造
同　額田郡菅生村　千賀種二郎
同　尋常中學校長　朝夷六郎
同　名古屋區水主町　龍山寶言
同　同　皆戶町　山田尊昭
同　同　吳服町　鬼頭與三兵衛
同　愛知郡沓掛新田　中嶋金右衛門
同　同　熱田須賀町　青木文七
同　名古屋區東橘町　沼波魁

同　西春日井郡下之鄉村　丹羽市次朗
同　同　同　丹羽左金次
同　知多郡有松村　野村定二郎
三重縣三重郡東坂部村　平野法了
滋賀縣滋賀郡山中村　山中了祐
三重縣朝明郡大鐘村　大賀賢海
同　同　杉谷村　芳岡智玉
同　同　田光村　栗田利廣
同　員辨郡相塲村　饗庭義成
同　同　安永村　伊藤智遵
同　桑名郡東方村　笑蒲敎順
同　三重郡下鵜川原村　鵜水智幢
同　同　潤田村　横山惠讓
同　同　水澤村　中川勵遵
同　員辨郡坂本村　藤嶽敬專
同　朝明郡小島村　訓覇周導
同　員辨郡本鄉村　興岡空明
同　三重郡鹽濱村　本田賢秀
同　員辨郡上相塲村　山田最正
同　同　本鄉村　梅田曉雲

同　同　山口村　藤田興立
同　朝明郡市塲村　渡邊界雄
同　桑名郡桑名　桑原祐幸
同　三重郡四日市港　北畠觀運
同　員辨郡森忠村　加藤俊澄
同　桑名郡桑名寺町　本田見道
同　員辨郡畑毛村　藤田實秀
同　桑名郡古野村　石川慧澄
同　同　桑名寺町　前川賢全
同　員辨郡市ノ原村　王來王家諦顯
同　三重郡末永村　廣幡遊法
同　員辨郡高柳村　瀨木惠運
同　同　南津原村　田代義誠
同　桑名郡桑名寺町　五瀨諦玄
同　三重郡東阿倉川村　田端貫一
同　同　上海老原村　水谷見敬
同　朝明郡永井村　佐藤敎覺
同　桑名郡美鹿村　猪飼柳垂
同　同　桑名鍋屋町　伊藤了玄
同　同　西外面村　飯田覺運

同　員辨郡中上村　花山大權
同　同　川合村　和田石鷗
同　朝明郡柿村　荒木智耀
愛知縣知多郡龜崎村　秦　嚴俊
同　同　有脇村　山口齡介
同　同　龜崎村　間崎周治
同　同　同　川澄貞齊
同　同　同　秋山文吉
同　同　同　岩井亞夫
同　同　同　山田言解
同　碧海郡和泉村　神谷小八郎
秋田縣仙北郡大曲村　榊田清兵衛
同　同　同　榊田清治
同　同　金澤村　月輪賢遵
同　同　川目村　山內好信
同　同　大曲村　栗林武藏
同　平鹿郡黑川村　河南深蔭
同　仙北郡六鄉村　飛澤祐治
同　同　神宮寺村　菅原慈春
同　警部補　薄井道正

同　仙北郡六鄉村　宮野願城
同　同　同　小原了觀
同　同　同　吉水是敎
同　同　同　福岡融頓
同　同　同　相馬丁空
同　同　同　長澤常應
同　同　同　佐藤宗孝
同　同　同　高柳祐物
同　同　同　澁谷文藏
同　同　同　飯村堅治
同　同　同　水原智然
同　同　同　藤井歸一朗
同　同　同　京野孝之助
同　同　同　又井民治
同　同　同　小西正治
同　同　同　澁谷久右衛門
同　同　同　小西利兵衛
同　同　同　小西鉄之助
同　同　同　畠山久左衛門
同　千屋村　須原受道

同　同　金澤西根村　照井八十八
山形縣南村山郡山形七日町　大谷勝隨
同　同　同　辻村柔善
同　北村山郡楯岡村　工藤治平
同　西村山郡役所書記　本多成允
同　柴橋村　渡邊七兵衛
同　同　川嶋正之助
同　東村山郡寒河江村　小笠原貞助
同　同　中村廣太
同　同　阿部松四郎
岐阜縣飛彈國益田郡上馬瀨村　日野嚴了
同　同　高根村　藤守圓海
同　大野郡高山町　宮川有慶
同　同　四辻鳳冠
同　同　清見村　中飯田惠明
同　同　西岡曉了
同　同　大名田村　平野素遵
同　同　高山町　坂上即成
同　同　山之口村　竹田得雄
同　同　大名田村　春國嚴覺
同　同　池之端物助
同　同　白川芳綠
同　同　清見村　松岡大壽
同　同　役所書記　清水清
同　同　田口太之助
同　同　高山町　奥田重章
同　同　高山中學校教諭　味岡正義
同　同　高山町　小原了祥
同　同　清見村　三枝善龍
靜岡縣遠江國敷智郡濱松紺屋町　鶴見淵藏
愛知縣尾張國知多郡秤ノ宮村　英大鳳
同　丹羽郡淺野羽根村　玉腰圓了
同　名古屋本町商　祖父江由三郎
同　同　傳馬町商　近藤恒吉
岐阜縣飛彈國　山崎弓東
同　近松矩弘
同　天野純一
同　三本慈教
同　畑善空
愛知縣名古屋押切町　富田領助

鳥取縣伯耆國河村郡橋津村農　尾崎義信
愛媛縣松山市大字末廣町　藤岡勘三朗
岐阜縣美濃國多藝郡三鄉村農　中村常三郎
同　同　日吉村　村上嘉間太
石川縣能登國鹿嶋郡七尾一本杉町津田嘉一郎
岐阜縣美濃國中島郡石田村　竹山得界
石川縣能登國鹿島郡赤藏村字高田三枝徹中
同　同　東港村字太田慈著宣忠
同　球洲郡飯田町　落合儈賢
同　同　鳳至郡東保村字留地富樫了觀
同　羽咋郡志雄村字子浦飯尾圓藏
同　同　南大海村字八幡早川政行
同　同　字箕打字野元種
同　同河合谷村字下河合河合乘雲
同　名古屋區長　吉田祿在
東京日本橋區小網町商　廣瀨新平
司法省三等屬　佐藤爲法
愛知縣士族　野村賀眞
同　額田郡　中村舛雄
同　東加茂郡梶村農　柴田春平
同　額田郡日名村戶長　峯澤角三郎
三重縣一等屬　滿岡勇之助
同　同　小池正一
愛知縣元幡豆郡長　所重禮
愛知縣中島郡起村農　山川茂兵衛
京都府始審裁判所檢事補　八田一精
大坂府堂島商　井上儀助
岐阜縣中島郡駒塚村　加藤良介
大坂東區北久太郎町　峯野龍曉
同　西區京町　勝祥麟
同　府西成郡上福島村　岡田德榮
同　東區上難波北之町　武田覺往
同　久寶寺町　目幸神洞
同　府學務課長　片桐正氣

◎隨喜會員

同　幡豆郡矢田村農　杉浦豊
同　一色村農　太田恒次郎
同　同　農　太田善四郎
同　同　農　亡　太田松二郎

同　丹北郡岡村　杉田芳太郎
兵庫縣神戸區小學校教員　佐藤彌太郎
大坂府東區安土町　川田齊助
同　府島下郡鮎川村僧　加藤法水
同　同　田中村僧　鷲尾順英
同　同　茨木村同　本多丁壽
同　同　泉原村同　佐藤惠洞
同　島上郡郡家村同　葦名信光
同　同　三島江村同　三牧得昇
同　島下郡福井村同　小林義顯
同　同　佐保村同　加藤惠通
同　同　祖本村同　水尾宗嚴
同　同　田中村同　鷲尾房麿
愛知縣碧海郡米津村　米津龜太郎
靜岡縣始審裁判所檢事　鈴木忠吉
同　收稅課長　杉山叙
同　有渡郡清水港戸長　八木甚四郎
東京控訴院書記　青木重彦
同　組合代言人　中島又五郎
同　仁杉英

同　野澤鶏一
愛知縣會議員　犬塚清藏
同　新美治郎八
同　額田郡菅生村僧　安藤光闡
滋賀縣伊香郡車阿閑村醫　山岡松烟
同　東淺井郡南濱村僧　立花德成
同　同　山之前村僧　筧大賢
福井縣足羽郡加茂村僧　塚本智龍
愛知縣中島郡刈安賀新田農　渡邊禮助
同　名古屋師範學校長　大窪實
同　同　出來町僧　亡　高須珊璉
同　同　法雨協會辨士　岡無外
同　中島郡刈安賀新田農　山本彦左衛門
同　同　農　山本英太郎
同　同　同　農　水野茂
同　同　同　農　山內伊兵衛
三重縣警部　箸尾喜三郎
同　桑名郡役所書記　前川莊太郎
同　同　岡田音五郎
同　同　都築敦厚

同　同　松岡喜胤
同　同　廣田則孝
同　同　士族　森本玄瑛
同　同　村田力太郎
同　同　川北作治
同　同　佐藤鑄三郎
同　同　桑名矢田磧　大橋三造
同　同　郡役所雇　田中金藏
同　同　大田友次郎
同　同　河合正吉
同　同　桑名清水町教員　吉川豐
同　同　內堀校長　鳥飼演廣
同　同　教員　磯田百輔
同　同　伊藤甲子五郎
同　同　同矢田磧教員　小幡金吾
同　同　柳本通德
同　同　船馬町　貝塚卯兵衛
同　同　吉ノ九　平野美純
同　同　內堀教員　財滿久純
同　同　矢田磧　篠田安次郎

同　內堀　今泉金次
同　京町　帆山勇
同　宮通　千葉主合
同　清水町　五井清哉
同　田町　平岡道也
同　一色町　稻垣重孝
同　元赤須賀　笹田鐙藏
同　一色町　山本鉄彌
同　同　森田諒平
同　鍋屋町　松村榮治郎
同　京町　東浦安治郎
同　今一色町　二井利三郎
三重郡川北村　進士信俊
桑名郡桑名賓殿町　酒井孫兵衛
同　船馬町　內田忠四郎
同　相生町　加藤彦兵衛
同　同　東捧仙之助
同　今一色寺町　佐川源治
同　同　岩田彦五郎
同　同　水谷政兵衛

同　今一色　水谷藤八
同　相生町　黒宮重一
同　風呂町　水谷宇三郎
同　賓殿町　渡邊善五兵衛
同　相生町　赤塚伊八
同　片町　加藤治郎八
同　宮通　上村喜三郎
同　殿町　長沼賢三郎
同　同　羽柴武三郎
同　三崎町　二井利左衛門
同　南魚町　水間咸造
同　太一丸教員　加藤鶴五郎
同　鍋屋町教員　塚本左次郎
同　内堀教員　佐治爲善
同　南魚町　安井政次郎
同　殿町　小森重藏
同　三崎通　小森精三
同　同　清水增吉
同　本町　川島喜兵衛
同　船馬町　平野清太郎
同　小細町　服部清兵衛
同　矢田町　伊藤久次郎
島根縣那賀郡芦谷村　岩本普濟
廣島縣山縣郡政所村戸長　政所和右衛門
秋田縣秋田師範學校教諭　今井彦三郎
同　体操教員　神樂岡大儀
同　警部　松崎治郎
山形縣飽海郡酒田港傳馬町　白崎善吉
同　寺町　菊池寂照
同　同　橘了周
同　船場町　本間長三郎
同　傳馬町　白崎良彌
同　天正寺町　市原平三郎
同　寺町　本多澄雲
同　同　前田了玄
同　上中町　金湖與左衛門
同　本町　池田藤八郎
同　寺町　華園得忍
同　同　日野義道
同　同　新田靈堪

同　橘周觀
同　佐藤俊龍
同　新田玄證
同　下内町　松井權平
南部山郡山形七日町　薄井忠
同　藤江法幢
同　原精一
同　白田辰麿
同　三好正光
同　小川六三郎
同　値賀知雄
同　植松良三
南秋田郡土崎港　白瀨金太郎
同　石川巳之吉
同　村上喜一郎
南村山郡山形八日町　丸谷喜之輔
同　最上方丸
北村山郡大久保村　溝邊大熹
同　湯澤村　湯口慧猛
同　楯岡村　山邊丁什
同　三澤與一郎
同　三澤昌太郎
同　柴田信五郎
同　平治
同　高宮吉之助
同　阿部運策
同　伊藤慶助
同　井田弟三郎
同　伊藤九平
同　高橋庄松
同　鈴木久太郎
同　大山伊兵衛
南村山郡山形小姓町　海野覺英
東村山郡漆山村　松本龍敎
南村山郡山形香澄町　神谷春治
同　小野義輔
同　七日町
西村山郡寒河江村　熊谷峯覺
東村山郡岡村　井上九兵衛
東置賜郡宮内村　高橋善隆
警部　猿木武司

同　東村山郡貫津村隱士　本澤老山
同　西村山郡日田村　藤江堅明
愛知縣屬　岩淵惟一
飛彈國大野郡高山町代言人　後藤竹二郎
同　同　同　長谷川木舟
愛知縣東加茂郡足助村　角眞太郎
同　法雨協會本部詰　劉潮
同　知多郡大野町　本多善明
同　名古屋擔町　原兵一郎
大坂府島下郡溝咋村教師　野口善四郎
香川縣香川郡川東村僧　橘正道
同　高松市擔屋町商　德田泰造
同　同　大字田町　中川傳平
同　同　今新町　青木玄鼎
同　同　同天神町縣會議長　松木貫四郎
同　同　同南新町商　正木久芽
同　同　同中新町士族　吉本彌一
同　同　同　久保顯藏
大坂府攝津國西成郡稗島村僧　江村秀山
島根縣出雲國大原郡阿用村僧　佐々木秀道
同　松江市和田見町僧　藤原勵觀
愛知縣三河國西加茂郡寺部村僧稻生恭導
同　縣會議員　松本但朗
同　士族　渡邊半藏
曹洞宗本山越前永平寺監院　戸澤春堂
岐阜縣書記　佐藤集
同　副典獄　紀野維益
同　書記　伊東義路
同　收稅屬　小田島源太郎
同　典獄　村井高正
同　警部　馬場德太郎
同　同　小川謙輔
同　同　島田郁太郎
同　同　池永和七郎
岐阜縣屬　石川才足
同　屬　杉山義勝
同　屬　島澤軍治
同　屬　千賀千足
同　收稅屬　吉田孫三郎

◉記事（會長講義演說數十件）

○明治十年一月廿六日ヨリ二月十一日迄自院安休寺ニ於テ永井昇道最上善顯ノ爲ニ因明三十三過本作法ヲ講ス

○同年五月十七日ヨリ八月十七日マデ愛知縣碧海郡吉濱村正林寺ニ於テ村上專精永井昇道最上善顯清水良秀外四名ノ爲メニ因明大疏第一第二第三ノ三卷ヲ講ス

○同年十月十五日ヨリ十一月三十日マテ愛知縣額田郡瀧村萬松寺ニ於テ村上專精永井昇道最上善顯清水良秀ノ爲ニ因明大疏第四第五第六ノ三卷ヲ講ス

○同十一年五月三十一日ヨリ八月九日マデ同寺ニ於テ門人永井昇道最上善顯外六名ノ爲ニ因明三十三過本作法ヲ講ス

○同年十月廿八日ヨリ十一月三十日マテ同寺ニ於テ因明正理門論ヲ講ス

○同十四年夏眞宗大谷派本山法主ノ命ニヨリ因明大疏ヲ京都大學寮ニ講ス

○同十五年十二月十四日十五日廣島控訴裁判所長松岡康毅君ノ發起ニ因リ該君邸宅ニ於テ因明大意ヲ講ス聽衆松岡君ヲ始メ外數十名

○同十六年一月廿六日京都下區花屋町西洞院河野通世氏ノ宅ニテ因明大意ヲ講ス

參聽人有志數十名

○同年二月二日ヨリ北垣京都府知事ノ賛成ニヨリ京都盲啞院ニ於テ因明ノ大意ヲ講ス聽者北垣府知事ヲ始メ外數十名

○同年三月三日四日愛知縣會議長端山忠左衞門氏ノ發起ニ因リ名古屋博物館品評所ニ於テ因明大意ヲ講ス

○同年四月二日三日新潟縣新潟港大谷派木揚場ニ於テ因明大意ヲ講ス

○同年六月一日ヨリ十日マテ新潟縣西蒲原郡三條北米教校ニ於テ因明三十三過本作法ヲ講ス

○同年同月廿日ヨリ廿九日マテ同縣西蒲原郡小中川村福泉寺ニ於テ因明三十三過本作法ヲ講ス

○同十六年七月七日ヨリ十一日マテ同縣三島郡來迎寺村安淨寺ニ於テ因明三十三過本作法ヲ講ス

○同年同月十三日ヨリ廿七日マテ同縣苅羽郡柏崎町大谷派木揚場ニテ因明三十三過本作法ヲ講ス

○同年同月廿九日ヨリ八月四日マテ同縣三島郡出雲崎町福嚴寺ニ於テ因明三十三過本作法ヲ講ス

○同年十一月一日ヨリ七日マテ兵庫縣飾東郡姫路町本德寺ニ於テ因明三十三過本作法ヲ講ス

○同年同月十一日ヨリ十七日マテ東本願寺連枝大谷勝緣殿邸內ニ於テ因明三十三過本作法ヲ講ス

○同十七年二月八日九日十日ノ三夜愛知縣渥美郡豊橋驛大谷派別院ニ於テ因明大意ヲ講ス

○同年二月十七日ヨリ廿三日マテ代言人大谷木備一郎氏外代言人四名ノ發起ニ因リ愛知縣名古屋區上長者町私立法律學校ニ於テ因明三十三過本作法ヲ講ス

○同年同月廿四日國貞愛知縣令ノ催ニ因リ名古屋區役所議事堂ニ於テ因明大意ヲ講ス此時滋野少將ヲ始メ外武官縣官法官數百名臨席

○同年同月廿六日廿七日ノ兩日愛知縣知多郡長々坂重孝氏ノ發起ニ因リ同郡半田町雲觀寺ニ於テ因明大意ヲ講ス

○同年五月十五日ヨリ貴顯ノ發起ニ因リ帝國大學ノ講義室內ニ於テ因明三十三過ヲ講ス聽衆西村文部大書記官ヲ始メ外數十名

○同年同月廿九日加藤大學總理ノ依賴ニ因リ帝國大學大講義室ニ於テ寄宿生徒ノ

爲ニ因明大意ヲ講ス聽衆總理部長ヲ始メ生徒凡三百名餘

○同年六月四日大猥重信君北畠治房君等ノ賛成ニ因リ東京專門學校ニ於テ因明大意ヲ講ス該校教員生徒一般聽講

○同年同月七日ヨリ十六日マテ東京淺草本願寺別院ニ於テ因明三十三過本作法ヲ講ス傍聽者各宗僧侶貴顯局外數十名

○同年同月九日東京鴆橋大猥重信君ノ邸内ニ於テ更ニ因明大意ヲ講ス此時大猥君及ヒ東京大新聞社員等數十名參聽

○同年八月十日愛知幡豆郡長所重禮氏ノ發起ニ因リ因明大意ヲ該郡役所樓上ニ講ス參聽二百餘名

○同年同月廿一日ヨリ七日間自院安休寺ニ於テ因明三十三過本作法ヲ講ス聽衆一百餘名

○同年九月十三日十四日愛知縣碧海郡長市川一貫氏ノ發起ニ因リ因明大意ヲ同郡知立驛正念寺ニ講ス

○同年同月十五日ヨリ三日間愛知縣西加茂郡長田中正幅氏ノ發起ニ因リ因明大意ヲ梅ケ坪村安長寺ニ講ス

○同年十月一日ヨリ十日マテ愛知縣名古屋大谷派別院ニ於テ因明三十三過本作法ヲ講ス

○同年同月十三日ヨリ十五日マテ中嶋名古屋控訴院長ノ發起ニ因リ因明ノ綱要ヲ名古屋區役所議事堂ニ講ス

○同年同月十七日ヨリ四日間愛知縣知多郡大野村光明寺ニ於テ因明初歩ヲ講ス

○同年同月廿五廿六ノ両日愛知縣額田郡長針谷重懋氏ノ發起ニ因リ同郡岡崎專福寺ニ於テ因明大意ヲ講ス

○同年十一月三日愛知縣海東西郡長横田太一郎ノ企ニ因リ海西郡津嶋村郡役所ニ於テ因明初歩ヲ講ス

○同年同月六日ヨリ九日マテ同縣丹羽郡木賀村祖父江重兵衛氏ノ宅ニ於テ因明初歩ヲ講ス

○同年同月十二日ヨリ十四日マテ岐阜縣安八郡四郷村片野篤二氏ノ宅ニ於テ因明初歩ヲ講ス

○同年同月廿六日愛知縣熱田治安裁判所長小盤幹氏ノ企ニヨリ同驛圓通寺ニ於テ因明大意ヲ講ス

○同十八年一月十六日ヨリ二月二日マテ愛知縣寶飯郡豊川村妙嚴禪寺ニ於テ因明正理門論ヲ講ス

○同年同月三日ヨリ十日マテ靜岡縣敷知郡濱松驛淨土宗玄忠寺ニ於テ因明三十三過本作法ヲ講ス

○同年三月一日愛知縣知多郡長長坂重孝氏ノ請ニ因リ該郡役所ニ於テ因明三十三過本作法ヲ講ス

○同年四月三日四日同氏ノ發起ニ因リ同郡役所樓上ニ於テ因明大意ヲ講ス

○同年六月十六日ヨリ三日間司法省内ノ大講堂ニ於テ因明ノ大意ヲ講ス此時山田司法卿ヲ始メ司法各貴顯及ヒ判事會ノ爲ニ出京ノ各府縣ノ裁判所長等臨席日々三百餘名

○同年七月廿三日ヨリ三日間東久世元老院副議長細川元老院幹事等ノ贊成ヲ得華族會館ニ於テ因明大意ヲ講ス元老院議官數十名臨席

○同年八月廿九日ヨリ九月一日マテ新潟縣越後國中頸城郡高田大谷派別院ニ於テ因明三十三過本作法ヲ講ス

○同年十月六日愛知縣名古屋區役所議事堂ニ於テ因明大意ヲ講ス長次官課長扣訴院長裁判所長及ヒ郡區長臨席

○同年同月廿九日ヨリ十一月二日マテ同縣三河國碧海郡大濱村西方寺ニ於テ因明大意ヲ講ス

○同年十二月十五日ヨリ三日間同縣三河國東加茂郡東大沼村等順寺ニ於テ因明大意ヲ講ス

○同十九年一月廿九日ヨリ三日間石井三重縣令等ノ企ニヨリ同縣三重郡津市四天王寺ニ因明ノ大意ヲ講ス參聽人日日五百名餘

○同年二月一日ヨリ五日間同市專琳寺ニ於テ因明三十三過本作法ヲ講ス

○同年同月六日七日同縣四日市港大谷派得願寺ニ於テ因明大意ヲ講ス

○同年同月十日ヨリ十二日マテ同縣三重郡菰野村西覺寺ニ於テ因明大意ヲ講ス

○同年四月廿一日ヨリ三十日マテ滋賀縣長濱町大谷派別院ニ於テ因明三十三過本作法ヲ講ス

○同年五月十五日十六日小崎岐阜縣令ノ贊成ヲ得同縣會議事堂ニ於テ因明大意ヲ講ス

○同年同月廿日ヨリ廿四日マテ同縣大垣町大谷派別院ニ於テ因明大意講ス

○同年九月十八日京都尋常中學校長今立吐醉氏ノ企ニテ京都倶樂部ニ於テ因明大意ヲ講ス

○同年十月廿一日ヨリ卅一日マテ本派本願寺學庠校長前波善孝氏等ノ企ニヨリ七條興正寺惣會所ニ於テ正理門論ヲ講ス此時本派本願寺學庠生徒七十余名及ヒ各宗有志僧侶五十余名日々聽講ス

○同年十一月五日ヨリ五日間山根京都始審裁判所長ノ發起ニ因リ該裁判所内ニ於テ講明三十三過本作法ヲ講ス

○同年同月十六日十七日中井滋賀縣知事ノ發起ニ因リ大津商工會議所ニ於テ因明大意ヲ講ス妻木小野ノ両書記官ヲ始メ該縣官法官縣會議員等數百名參聽

○同年三月八日九日兒嶋大坂控訴院長ノ催シニテ大坂控訴院内ニ於テ因明大意ヲ講ス日々參聽縣官法官代言人等四百余名

○同年同月十日ヨリ十四日マテ大坂遊林社員ノ請ニ因リ因明三十三過本作法ヲ大坂東區南久太郎町稱讃寺ニ講ス

○同年同月十四日大坂關西法律學校ニ於テ因明九句因ヲ講ス教員生徒一般聽講

○同年同月十六日十七日因明大意ヲ和泉國堺港禪宗南宗寺ニ講ス

○同年同月十九日廿日兵庫縣會議員藤田積中氏ノ發起ニテ兵庫小學校ニ於テ因明大意ヲ講ス縣官法官等日日數百人參聽

○同年同月廿四日ヨリ廿七日マテ大坂組合代言人寺村富榮尾形兵太郎北村左吉諸氏ノ發企ニ因リ大坂商法會議所ニ於テ因明三十三過本作法ヲ講ス此時法官代言人等日日數十名參聽

○同年同月廿八日ヨリ四月七日マテ東本願寺法嗣殿ノ命ニ因リ御學館ニ於テ因明三十三過本法作ヲ講ス

○同年同月八日ヨリ四日間大坂府下茨木大谷派別院ニ於テ因明大意ヲ講ス

○同年同月廿三日ヨリ廿五日マテ滋賀縣伊香郡東阿閉村山岡松烟氏ノ宅ニ於テ因明大意ヲ講ス

○同年五月七日八日愛知縣知多郡長長坂重孝氏ノ發起ニ因リ同郡半田村雲觀寺ニ於テ因明大意ヲ講ス

○同年同月十一日同縣幡豆郡長佐々木復介氏ノ發起ニヨリ西尾康全禪寺ニテ因明大意ヲ講ス

○同年六月廿二日ヨリ廿六日マテ安原靜岡始審裁判所長ノ發ニヨリ靜岡市實臺院

本堂ニ於テ因明入正理論ヲ講ス此時關口靜岡縣知事ヲ始メ縣官法官各宗僧侶等
日日數百人參聽
○同年同月廿七廿八日同縣有渡郡清水港本魚町實相寺ニ於テ因明大意ヲ講ス
○同年七月五日夜東京上野一丁目吳服商安部孝助氏ノ宅ニ於テ因明大意ヲ講ス
○同年同月七日ヨリ三日間東京組合代言人大谷木備一郎大岡育造両氏ノ發起ニ因リ東京柳橋万八樓及ヒ同吳服橋柳屋ニ於テ因明大意ヲ講ス此時東京代言人數十名來聽
○同年十一月廿四日勝間田愛知縣知事ノ發起ニ因リ同縣名古屋區廣小路區役所内ニ因明講義ヲ開ク
○同年十二月一日大窪名古屋尋常師範學校長ノ發企ニヨリ該校大講堂ニ於テ因明大意ヲ講ス
○同廿一年四月廿七日愛知縣中嶋郡刈安賀新田ノ有志ノ請ニ因リ同新田渡邊禮助氏ノ宅ニ於テ因明大意ヲ講ス
○同年六月五日ヨリ十一日マテ三重縣伊勢學塲有志ノ發起ニヨリ同國桑名大谷派願寺別院ニ於テ因明三十三過本作法ヲ講ス聽衆五百余本

○同年七月廿一日ヨリ廿七日マテ秋田縣仙北郡大曲驛大谷派安養寺ニ於テ因明活眼ヲ講ス聽衆五十余名郡長原弘藏氏等日日參聽
○同年同月廿八日ヨリ八月三日マテ同縣同郡六鄕村大谷派淨光寺ニ於テ因明三十三過本作法ヲ講ス
○同年八月六日ヨリ十二日マテ同縣野代港長根町大谷派德善寺ニ於テ因明三十三過本作法ヲ講ス
○同年同月十四日同縣秋田町淨土宗誓願寺ニ於テ因明三十三過本作法ヲ開講シ同十五日ヨリ講塲ヲ同町大谷派本誓寺ニ轉シ同廿日滿講ス
○同年同月十四日ヨリ三日間青木秋田縣知事薄井秋田始審裁判所長ノ催ニテ秋田倶樂部ニ於テ因明大意ヲ講ス
○同年同月廿一日ヨリ廿五日マテ同縣土崎港眞宗本派西船寺ニ於テ因明三十三過本作法ヲ講ス
○同年九月一日ヨリ七日マテ山形縣酒田港安祥寺ニ於テ因明三十三過本作法ヲ講ス聽衆百余名
○同年同月十一日ヨリ廿日マテ同縣山形市時宗光明寺ニ於テ因明三十三過本作法

ヲ講ス小野山形始審裁判所長ヲ始メ外百五十余名

○同廿二年一月十九日長坂知多郡長ノ發起ニ因リ愛知縣知多郡半田村雲觀寺ニ於テ因明ヲ講ス

○同年三月廿四日ヨリ三十日マテ青樹中嶋郡長伊藤元縣會議員ノ發起ニ因リ愛知縣中嶋郡役所內議寺堂ニ於テ因明三十三過本作法ヲ講ス聽衆百余名

○同年四月七日ヨリ十三日マテ岐阜縣飛彈國高山町眞宗大谷派別院ニ於テ因明三十三過本作法ヲ講ス聽衆六十余名

○同年八月十八日ヨリ廿四日マテ京都佛敎青年會員ノ發起ニ因リ京都寺町四條下ル淨土宗長春寺ニ於テ東洋新々因明發揮ヲ講ス

○同年九月十五日光闡會員ノ發起ニヨリ京都高倉眞宗大學寮ニ於テ東洋新々因明發揮ノ大意ヲ講ス聽者二百三十余名

○同年同月廿一日ヨリ廿六日マテ東本願寺連枝攝光院殿ノ發起ニヨリ其邸內ニ於テ東洋新々因明發揮ヲ講ス

○同年十二月一日ヨリ七日マテ愛知縣名古屋市慶永寺ニ於テ東洋新々因明發揮ヲ講ス

○同廿三年一月十八日十九日愛知縣三河國碧海郡鷲塚村二本木說敎場ニ於テ因明大意ヲ講ス

○同年同月廿五日ヨリ卅一日マテ愛知縣尾張國海西郡津嶋町淨信坊ニ於テ午前因明三十三過本作法午後東洋新々因明發揮ヲ講ス

○同年三月廿三日德嶋縣阿波國德島市淨土宗淨智寺ニ於テ因明大意ヲ講ス

○同年同月廿六日廿七日香川縣讚岐國高松市福善寺ニ於テ因明大演說柴原香川縣知事吉田石津兩書記官等參聽四百名餘

○同年四月二日三日愛媛縣伊豫國松山市公會堂ニ於テ因明大演說勝間田知事及書記官少將等參聽五百名餘

○同年四月六日愛媛縣伊豫國宇和嶋町眞敎寺ニ於テ因明ヲ講說ス

○同年同月十日香川縣讚岐國丸龜町善龍寺ニ於テ因明ヲ演說ス

○同年同月十五日廣島備後國福山町西善寺ニ於テ因明ヲ演說ス

○同年同月十八日同縣廣島市大谷派別院ニ於テ因明ヲ演說ス

○同年同月廿九日三十日島根縣松江市和田貝町本龍寺ニ於テ因明大意ヲ講シ夜中ハ師範學校ニ於テ因明ヲ講ス籠手田島根縣知事等臨席聽衆師範學校中學校小學

校生徒等五百餘名

○同年七月五日六日愛知縣知多郡半田町雲觀寺ニ於テ新々因明發揮ヲ講ス

○同年七月廿日ヨリ廿六日マテ岐阜縣美濃國下石津郡高須町大谷派別院ニ於テ午前三十三過本作法ヲ講シ午後新々因明發揮ヲ講ス

○同年八月五日ヨリ廿日マテ福井縣越前國福井市大谷派學場ニ於テ三十三過本作法ヲ講ス安立福井縣知事本部書記官芹澤始審裁判所長田中上席檢事其他縣官法官臨席セリ殊ニ大久保陸軍少佐小松師範學校監事明石師範學校教諭ハ毎日不欠ニ臨席聽講セラレタリ

○同年九月一日ヨリ八日マテ岐阜縣美濃國岐阜市大谷派別院ニ於テ新々因明發揮ヲ講ス

○同年同月九日ヨリ十三日マテ同縣養老公園內大谷派教場ニ於テ新々因明發揮ヲ講ス

○同年十月十二日ヨリ廿五日マテ石川縣能登國七尾町長福寺能登學場ニ於テ東洋新々因明發揮ヲ講ス

○同年十一月二日同縣同國羽咋郡南大海村字八野早川政行氏宅ニ於テ因明大意ヲ講話ス

○同年同月三日四日同縣金澤市大谷派別院廣間ニ於テ東洋新々因明一斑ヲ講話ス

○雲英會長因明ニ關スル著書出版如左

○明治十二年十一月因明正理門論科圖ヲ著ス

○同年十二月因明二十頌ヲ著ス

○明治十三年二月因明入正理論科圖ヲ著ス

○同十四年四月因明三十三過方偶錄ヲ著ス

○同年十一月入正理論疏ヲ著ス

○同年十一月因明入正理論疏方隅錄ヲ著ス

○同年十二月因明大意同初步ヲ著ス

○同十七年四月因明三十三過本作法科本ヲ著ス

○同年五月因明活眼ヲ著ス

○同十七年十一月入正理論料本ヲ著ス

○同十八年因明正理門論科本ヲ著ス

○同十八年八月因明三十三過本作法講義ヲ著ス
○同廿二年三月東洋新々因明發揮ヲ著ス
○同廿三年六月東洋新々因明一斑ヲ著ス

◉雜錄（諸疏拔書）

○犬三支沙門痴空撰四紙左ニ云昔延喜帝ハ因明ヲ好ミ玉ヘハ南都北嶺ノ學徒各々因明ニ通達シテ公請ノ論筵ニ互ニ因明ノ式ニテ論議スレハ惡惠大師ノ時分ニハ因明カ大流行ニテ惠心僧都ハ俱舍因明ハ此土ニ究ムト仰セラレシ程ニテ自他宗ニ名高キ因明者ナリ當時ハ論議ヲ業トスル者モ三支ノ名サヘ知ラヌ樣ニナリシハ法門ノ衰ヘタルナリ

○本朝高僧傳八左七紙和州東大寺沙門圓超傳云、延喜聖帝十四年春、命諸山碩師、錄記一家之章疏、於是天台之英玄同、三論之傑安遠、法相之俊平祚、律宗之彥榮稔等、各遵勅錄呈焉、超記華嚴宗疏鈔、及因明目錄、並作序以於進於闕、云云

○同八左紙江州叡山玄昭傳云、仁和四年會皇太后五十之生辰、陽成上皇請諸名德六十員、講論諸宗妙旨、以慶壽筭昭、英南京勢範、對論因明之義、昭問鋒銳、範答辨不通、時醍醐座主聖寶嘆云、世謂昭公爲護摩王、今觀之亦可稱因明王、宮中傳爲美談、

○同十五紙右江州園城寺賴增傳云、延久二年後三條帝、仁和寺南建、四宗寺置法華最勝二會、差二京僧、講演法義四年十月、增膺講師、帝率百僚幸寺聽法、興福賴信、問因明義、增曰、非家學不敢答、信曰、已當朝撰、何闕博涉、增曰、因明唯是對破外執之論、而不言勝義諦、雜學駁論、何爭論贏乎、

○論曰、因明者禦外侮之論也、夫害於佛法者、莫過於外道也、渠究四韋陀論、見得八万刧、其立言之詳、非如儒之談性理、撥因果、漫謗佛敎也、方之佛法差以毫厘、若不以因明之三支而徵詰之、奚知過之以千里哉、故菩薩作論以摧之、其譯始於彌勒、而盛於陳那也、戒賢傳之支那玄奘、奘公傳之本朝道昭、從此展轉承傳、非其器則不敢妄授焉、至東大寺長歲和尙始盛弘之、南京學者、立於論場、講習討論焉、獨天台一家自古不學之、及學者格物致知、則雖世書宜學之、況菩薩之眞論耶、但其論文、依破外道、事義細瑣、難容易解、故學者忽之、

○同六二十紙左和州元興寺賢應傳云、貞觀五年、昇維摩會、主坐酬義學問、挫銳解紛、住元興寺、秉相宗之柄、是歲於山階寺講筵、與東大寺三修、論因明比量相違前宗後因云云

○瑞源記三三十三紙右稽我本邦醍醐天皇、嘗究聖典、居于賓極、頗遵佛化、陰翊大改、干時延長延喜次年号四年春特詔勅南都巨刹、各俾碩德者、修釘纂文、考覈臧否、然撮其要、大有二傳、一云云云云云云云、

○大日本史二百四十八外題六十四卷列傳初紙云藤原賴長、太政大臣忠實第二子、幼名菖蒲若、長承中叙正二位、爲權大納言、保延初兼右近衛大將、任內大臣、五年兼皇太子傳、轉左近衛大將、藤原通憲、勸之學、賴長

乃師通憲、又學於源師賴、藤原成佐、傍受因明於僧惠曉、才名日著、忠實特愛、乃至五年拜左大臣、叙從一位乃至稱宇治左大臣、

○台記別記（宇治關白頼長公ノ日記）ハ京都北野神社ノ寶庫ニ秘藏セリ此記中ニ因明關係ノ事アルヲキ、門人恒川應昇池尾專淨ヲシテ拔萃セシメ原本ノ儘ヲ記ス

台記寫本十二冊

第一　康治元年三月四日一切經會両院臨幸之事

第二　同二年七月廿二日釋典講論者傳之事

第四　久安元年二月一日釋典事

第五　同二年四月一日釋典止供鹿事

第八　同六年四月廿七日一切經供養之事

第十　仁平三年七月三日治釋典次第四卷事

同　同年七月廿六日習釋典禮事

第十一　久壽元年八月三日釋典事

同年十月十一日修因明八講事

台記之別記七卷目錄中釋典之事ナシ

○久壽元年甲午十月十五日

十五日甲午拂曉褂衾、講師布施等送南京、年來讀師布施太相公可送也、而妻裘四十九日未過、仍內府送了、早且放立義請藏俊公繼藏者望多上臈以長因明可抽賞也、其田載長者宣可言繼者公能卿之子依爲學生、去春入唯識會聽衆、年滿二十、或曰十九、仍滿二十、田令書言狀付社司撿春日寶前令讀之、辰刻參高易院御堂、依雨習禮延引、仍退出、今日隆覺獻法華會立義請書、即給行範、又以法眼定曜、還補淸水寺別當修因明八講事義

自今日余修因明八講放出東對母屋三ヶ間、西廂三ヶ間、南廂四ヶ間、母屋南第四間南面戶其西間放鳥居障子懸簾卷南西廂簾母屋南第一間、北頭立佛臺懸賢聖像、其前立花机一脚、備香花佛供如常。其左右立灯臺供灯花、几前立禮盤三基、其左右立高坐東西相對各有前禮覆未地錦講師前机置當坐講書西廂第一間除角間東頭通北立螺鈿机一脚東西妻其上安經箱。有簿物西伏南廂西第一間。角間西頭敷高簾端帖一牧。南北妻爲証義者座。同間南頭逼東敷高簾端帖一牧。東西妻爲僧綱頭坐。同第三四間。加角間計之敷紫端帖一牧。東西爲凡僧坐四間東頭敷紫端帖一牧。南北妻爲同坐。其坐前北方立礎臺。南孫廂西第間立散花机二脚。一行東西行有敷物並覆同廂西第間南頭敷高簾端帖一牧。東西妻爲聖人坐。同第三四間南頭敷高簾端帖三牧爲上達坐。同廂西簀子敷紫端一牧。南北妻爲右方堂童子座、同廂間第五西東頭敷紫端帖一牧、南北妻爲左方堂童子坐、中內廊北第二三間東頭敷紫端二牧、爲殿上人坐、中門內南脇懸鐘池岸柳樹東頭搆二間錦二色幄、東西妻其內立案東西妻積諷誦物、調布三百端代白布廿端

侍廊障子上爲衆僧集會所、中廊設上達中坐參出居中廊仰家司有成朝臣令打鐘了率上達着對弘廂坐、次殿上人着坐、院殿上人口着次僧侶參上、講讀師就禮盤、禮佛了登高坐、堂達打磬、堂童子四人諸太夫着坐、次唄、此間曳花莒、次散花、次對揭、此間雙花莒、次講師讀佛眼眞言、次神祺、次表白、次讀双文、次揭新寫論題飯命、次諷誦、件父家司加署市取之付堂達　法　以勸講、次讀師揭論題、次說法了、講師問論初文、讀師讀之、次講師揭論題、南无因明正理門論次論議、三重每坐如此先了論談依勝義者許不論上下日定仰其由云々　僧侶皆論之余交詞打磬之後、僧侶自下退下、復次殿上人自下退下、次上達部自下退下、復本坐、次余打鐘了着坐次第如前、但无佛眼眞言、表白、讀願文、揭新寫論題飯命諷誦、過夜半事訖、

證義者

權大僧都尋範　興福寺

本所議者今日惣供養、導師惠曉僧都、自明日四ヶ日八講、便以惠曉爲証義者、然惠曉依頓病辞退、仍以尋範爲証義者、惣供養導師尋範辞退、故停惣供養、日々供養也、

講師　除覺敏外皆興福寺

權律師覺珍、　同兼圓、　擬講敎任、先年賜請辞退　已講晴譽、　當講兼祐、　擬啓覺敏、賜明年請東大寺　得業敎高、　擬得業俊、賜明年請

初日　朝座陳那　理門論夕座同

第二日　同　天主　入正理論夕坐同

第三日　同　慈恩　疏上中夕坐疏下

第四日　同　淄州　纂要夕坐義斷

每坐行事家司盛憲取可供奉之書、置講師前机、夕坐者公卿退末還著之間置之、朝座者事未始之前置之、

初揚題時揚其書名、疏纂斷同說法了、揚題時雖供養疏纂斷、猶稱南无入正理論、

中卷記錄アリトイヘトモ皆儀式ノ事ニ止ル

廿六日乙巳右大將參大乘會、今夜召証義顯惠立者立勝、論因明義、大會短冊一有法差別、二若言眼等必爲我用、我他相禮三因不遍事、

○沙石集云　量ヲ立ト云フハ因明ノ法門ナリ外道ヲ破スルコトハ因明ノ道理ナリ宗因喩ノ三ヲ以テ義理ヲ成スルナリ刼毘羅外道常見ヲ起シテ大ナル石ニナレリシヲ陳那菩薩量ヲ立テ、石ニ書キ付ク石吠テ破テ失ニキ汝カ我ハ无常ナルヘシ宗受クハカニ外行ヲ故ニ因尙シ如ニ聚雲ノ喩聲論外道モ聲ハ色形ナシ常住ノ法ナリト許セシヲ佛弟子ノ量ヲ立テ、云ク聲ハ是レ无常ナルヘシ宗所作成ノ故ニ因猶シ如ニ瓶等ノ喩　先年南都ニ侍シニ或人ノ物語ニ明惠上人ノ我等ハ犬時者ナリトテ非時ニ菓子ナド召ケルト申候ヲナニトモ思ヨラ

ス侍シ程ニ信濃國ノ山里ヲ事ノ縁アリテ越侍シ時犬辛夷ノ花ヲ見テ此事心得テ侍リキ悟道得法モカクヤト覺ヘ侍シカハ南都ニアソビナレテハンヘリシ同法ノモトヘ量ヲ立テ、一首送リタル事侍キ思出シノハシヘルマ、ニ從事ナレ𪜈書侍給ヘリ我是犬時者（ナルヘシ）宗形（ナリ）似（ニカ）非實ニ故ニ因猶ノ如ニ犬辛夷ノ喩ル木律僧ヲハ離レッ、犬時者ニモヤナリニケル哉　オノヅカラ事ノ道理ヲイラヘハ自然ニ因明ノ法門ニナル事侍リ人ノヲロカナルヲ　汝（ハ）是レ愚痴（ナルヘシ）宗无（キカ）ニ智恵故ニ因猶ノ如ニ畜生ノ喩

○嘉永三年亞米利加ノペルリ始テ總州浦賀ニ來リ交易條約照會ノ時江州彦根城主伊井掃部頭德川家ノ大老職タリシニ右交易條約ニツキ因明學ニ達シタル或ル僧ヲ召シテ條約案ヲ書シメタルコトアリ其案ハ秘藏シテ存生中曾テ余人ニ見セサリシニ櫻田門外右掃部頭變死ノ後掃部頭ノ手箱中ヨリ出タリト云コトナリト己上明治十八年元老院幹事細川潤二郎君ヨリ會長ヘ直話アリタリ

○會長明治十七年度東上ノ節元老院議長大木喬任君ヲ訪問ス談偶々因明學ニ及ヒ宗因喩三支及ヒ合離作法等ノ談話ヲナセシコトアリ君云ク曾テ佐賀藩中ニ補原面密點ト云コトヲ秘傳トシテ教授セシモノアリ聞ク人感心セサルモノナシ是ハ全体文章ヲ作ル法ナリ然レトモ漢世已下ノ文章ハ此法ニ契ハス漢已上史記左傳孟子等ノ文章ハ悉ク此法ニ合ス補ハオギナフ義ナリ原ハ原因ナリ面ハ向フヘ打ヲ出スツラノコトナリ密點トハ補ト原ト面トノ繋キ合セノ言ナリ其繋キ合セノ言ニ點ヲ打タシメテ教授スルユヘニ是ヲ密點ト云今マ師カ宗因喩ノ說ヲ聞クニ喩ハ因ヲ補ヒ助ケテ宗ヲ成スルユヘニ全ク補ナリ又因ハ原因即チ理由ノコトナレハ全ク原ナリ又宗ハ何ハ何ナルヘシト自宗ヲ打出シ顯ハスユヘニ全ク面ナリ宗因喩ヲ例ニスレハ喩因宗トナル因明ノ喩因明ヲ補原面ト言ヲ替ヘテ事新シク申セシモノナリ又密點トハ繋キ合ノ言ナレハ合離ノ作法ニアタルナルヘシト云云是亦一新奇談ト云ヘシ

○淨留里アコヤ琴責拔萃　ほこや、今日もまた白狀せぬよ那、はてさてしぶとひ、なぜいとぬ、去なからそれもなあ、無理とは思はぬ、義理と情を表に立るか遊君のならひ、いかに責らるゝかつらゐ迚、なじみを重弥た夫の行衞、ついおふ共明されまい、さゝなきだよ流と立る女は、誠なき者と一ひきに心得しやからも有ば、それらが譏りも、うたてく思ひ、又は同じ憂ふしを勤る、友傍輩の顏よごしなどれもふての事ならん、爰をとくと合点せう、景清が行衞存ずべき者なをばころ、からめ取て詮議もする、ほりやふに白狀すをば、かゝじけなくも謙倉殿の御意を安んじ奉り、天晴の御奉公、万人のそしりを請けても、君一人の心ろに叶つゝ、其身の冥加ほしからまじ、爰をよく辨へて、さあさあぱりと景清が有家、此重忠に聞せいと、物和らかに理をせめて、然もこたゆる詮議の詞、あこやは聞て、さつてもきびしい殿樣、四相をさとる御方とは、常々咲（ソウサ）よ聞たれど、何の子細らしい、四相の五相の、小袖に留る伽羅じやまでと、あだ口に云ながせしが、けふの仰にがゝれた勤の身の心をくんで添い、れつしやり樣なんくのせい文で、景清殿の行衞知てさへ居るなら、れ心にはだされ、ついいはんと云てのけふが、

何をいふとも知らぬが眞實、

〔雲英會長云此ノアコヤ琴責文言中四相トアルカ因明四相違ノコトニテ即チ言辭ト意内ト相違スルヲ責メツケ能ク破斥スルコトヲ得ル法ナルヘシ

○秋田縣下高柳了得氏ヨリ雲英會長ヘ贈ル詩云

大器從來是晩成、年過知命達因明、如今八十餘州裏、莫不雲英晃耀聲、

○柴原香川縣知事ヨリ會長ニ贈ル詩云

欲究因明樹茂勳、到邊足日博聲聞、能將譬喩發新聲、鄒孟已遠唯有君、

活版ハ文明ノ利器也
廣告ハ薄給ニシテ有爲ノ賣弘人也

特別廣告

新聞雜誌報告規則書籍類諸會社銀行株券郡役所町村役場帳簿用紙切符受領証類名札定價表引札廣告商標レッテル類目下緊要年始狀こゆみ
右活版 石版 銅版 金摺 色摺 御好に從ひ紙質を精撰し特別廉價を以て日限を誤らす印刷仕候間御注文被仰付度候
附テ遠方ノ御注文ハ郵便ニテ御照會被下候ハヽ見積書差上可申候

三河新聞社

廣告

雲英晃耀師還暦賀莚

◉緒言

因明院雲英晃耀師以因明學甲於天下四方貴顯學士無不列其講肆而講究其義者加之近有新々因明之作於世間法津及日用之事所利益者非鮮少也可謂東洋因明之中興矣師今年齡至耳順同志相謀欲以明年設還暦之賀莚而祝師之初度請四方諸彥不吝書畫之與詩歌各寄贈雲煙金碧之手澤以翼贊此舉不勝幸甚

明治廿三年八月　　幹事狀乞

明治廿三年十二月十八日印刷
同　年同　月同　日出版

編輯者兼發行者　雲英龍護　愛知縣三河國幡豆郡一色村大字一色二百廿九番戶

印刷者　高須常平　愛知縣三河國額田郡岡崎町大字傳馬百九拾四番戶

發行所　因明學協會　愛知縣三河國幡豆郡一色村大字一色二百廿九番戶

印刷所　三河新聞社

特 51
163

因明学協会報告

国立国会図書館

014740-000-6

特51-163

因明学協会報告

因明学協会／刊

M23

ABC-0029